



自分AtoZシリーズ

塩見直紀  
A to Z

## MESSAGE

いまからちょうど10年前の2007年12月7日、  
「AtoZ研究所」というブログを立ち上げました。

世界のAtoZ事例を収集し、  
自分AtoZ、住んでいるまちや村のAtoZを、  
自分のテーマのAtoZをつくってもらうための  
ヒントを提供したいという願いから。  
ぼくはこのAtoZという発想法、編集手法に  
可能性を感じているのです、と書いています。

※半農半XのころAtoZ  
（「半農半Xの種を播く」）・  
ローカルビジネスのころA  
toZ（「ローカルビジネスの  
つくり方問題集」）・綾部At  
oZ（「AtoZが世界を変え  
る!」）・鍛冶屋自治会AtoZ  
（同）・農家民宿AtoZ（福  
知山公立大学2年生ゼミ）  
・福知山グッドデザインA  
toZ（同）・福知山マラソンA  
toZ（同3年生ゼミ）・地域  
観光AtoZ（同1年生「地域  
観光論」授業）・中世木Ato  
Z（中世木ビジョン委員  
会）・鬼AtoZ（大江山 鬼の  
学校2017）などなど。

あれからいろいろなテーマをAtoZにしてきました。\*

今回はいつか試みてみたかった  
「個人版AtoZ」ミニブックをつくってみました。  
まずは隼より始めよ、ということで、塩見直紀編です。

ぼくはみんなが自分のAtoZをつくって  
自身のキーワードを世に活かし合う世界をイメージしています。

それぞれがAtoZ手法で、X（エックス）の見える化を試みれば  
まちが、何かが変わっていくと思うのです。

2017年12月16日 塩見直紀

## ABOUT

SHIOMI NAOKI

### 塩見直紀

1965年、京都府綾部市生まれ。33歳を機に、綾部へUターン。フェリシモを経て、2000年、「半農半X研究所」設立。「半農半X」コンセプトを20年前から提唱。著書は台湾、中国、韓国でも出版され、海外講演も。ライフワークは個人から市町村までのXの応援とコンセプトメイク。綾部ローカルビジネスデザイン研究所、京都府北部対象「スモールビジネス女性起業塾」代表。福知山公立大学地域経営学部特任准教授、総務省地域力創造アドバイザー。

- 1965 京都府綾部市生まれ
- 1979 中学時代から写真を撮り始める（自宅で白黒現像も）
- 1985 伊勢へ（皇學館大学文学部国史学科入学）
- 1989 株式会社フェリシモ入社（人材教育部、ソーシャルデザインルームなど）
- 1990 結婚
- 1999 33歳を機に綾部へUターン（会社卒業）
- 2000 半農半X研究所設立、里山ねっと・あやべ立ち上げに参画
- 2002 『青年帰農』（農文協）で半農半Xについて初めて詳述
- 2003 『半農半Xという生き方』上梓
- 2006 台湾版出版（台湾初講演は2009年）
- 2013 中国版出版（中国初講演は2014年）
- 2016 福知山公立大学（地域経営学部）特任准教授に
- 2016 龍谷大学大学院政策学研究所（1年修士コース）へ
- 2017 京都市立芸術大学大学院美術学研究所（博士後期課程）へ



## CONTENTS

AYABE  
A 綾部&大本、出口王仁三郎

BOKOU  
B 母校&里山ねっと・あやべ

CONCEPT  
C コンセプト&コンセプトメイク

DAUGHTER  
D 娘・雛子

ECOLOGY  
E エコロジー(環境問題)

FELISSIMO  
F フェリシモ

GRANDMOTHER  
G 祖母

HANNOUHANCYO  
H 半農半著&星川淳さん

IROKOIZOKU  
I イロコイ族(7世代後という思想)

JYOHO  
J 情報発信

KOTOKU  
K ことば&書くこと(紙とペン)

LONG  
L 長く続けていること

MOTOISE  
M 元伊勢&伊勢

NOU  
N 農

OPEN SOURCE  
O オープンソース

PUBLISHING  
P 半農半Xバブリッシング&  
本をテーマにしたまちづくり

QUEST  
Q クエスト(自己探求)

REKISHI  
R 歴史

SENSE OF WONDER  
S センス・オブ・ワンダー&写真

TEACHER  
T 先生(父、教育)

UCHIMURA KANZO  
U 内村鑑三&  
後世への最大遺物(33歳=人生の締切①)

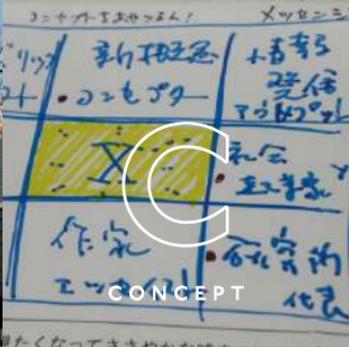
VISION  
V ビジョンメイク

WIFE  
W ワイフ(つれあい公子さん)

X  
X エックス

YONJYUNI  
Y 42歳(母の帰天の年齢=人生の締切②)

ZAYU  
Z 座右の銘



昭和40年(1965)4月、京都府綾部市生まれ。綾部といえば、「大本(教)」(明治25年、1892)と「グンゼ(郡是製糸)」(明治29年、1896)です。わが家は真言宗で、ぼくはアニミズム志向で、特定の宗教への偏りはありませんが大本の「万教同根」の考え、共鳴します。出口王仁三郎さんは巨人!

### 綾部&大本、出口王仁三郎

母校の豊里西小学校が1999年3月、閉校に。小さな小学校で同級生は9名、在学時、全校生徒60名ほどでした。母校の跡地を活かして、2000年、都市農村交流や移住促進をおこなう里山ねっと・あやべが誕生し、初代スタッフに。そこでツーリズムや農家民宿、都市への情報発信、地域資源調査など多くを学びました。

### 母校(旧豊里西小学校)&里山ねっと・あやべ

20代のころ、「新概念創出能力」という言葉に出会い、以来、コンセプトについて、コンセプトメイクについて関心をもってきました。アメリカの社会学者タルコット・パーソンズによると、コンセプトとはサーチライトだそうです。ぼくのめざすところを大げさに言えば、「コンセプトで世界をデザイン」です。

### コンセプト&コンセプトメイク



# D

DAUGHTER



# E

ECOLOGY



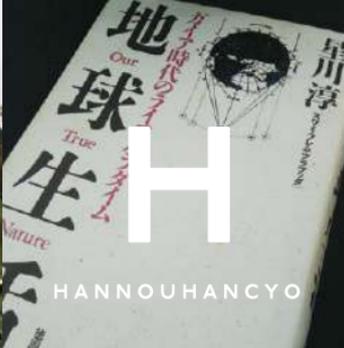
# F

FELISSIMO



# G

GRANDMOTHER



# H

HANNOUHANCYO



# I

IROKOI

25歳で結婚したので、7年目に娘・雛子が誕生しました。食にはこだわってきましたが、農を始め、田舎に暮らし(綾部～京都通勤)、食を完全雑穀料理にしたらすぐに授かり、びっくり。この方向でいいと、娘が教えてくれたように思います。いま、明治大学農学部で地域再生など学んでいます。

## 娘・雛子

バブルの頂点である平成元年にカタログ通販会社フェリシモに入社。早くから環境問題に取り組む会社であったことから、持続可能な生き方、暮らし方、働き方を考えるようになり、半農半Xというコンセプトが20代ときに誕生しました。半農半Xはフェリシモとの出会いが重要なファクターとなります。

## エコロジー(環境問題)

フェリシモは採用試験もユニークで、会社説明会后、A4サイズの20頁の白いノートももらい、1週間以内に世界で1つの「自分カタログ」をつくり、提出することができます。同期や先輩には芸大出身も多く、創造人材の才能に驚きました。アイデアを出せることが20代以降の大きなテーマになりました。

## フェリシモ

母が小学4年のときに帰天し、4つ上の姉とぼくを祖母が育ててくれました。祖母は本が好きで、文を書くのも好きでした。祖母の畑仕事やお風呂を焚く姿を見て育ちました。昔の知恵に関心をもつようになるなど、大きな影響を受けたように思います。

## 祖母

20代るとき、環境問題に出会い、持続可能な生き方、暮らし方を模索。いろんな本を読むようになりました。屋久島在住の作家、翻訳家の星川淳さんの著書群も重要なものでした。星川さんが自身のライフスタイルを「半農半著」と言っておられて、これだと思い、そこから半農半Xというコンセプトが誕生したのです。

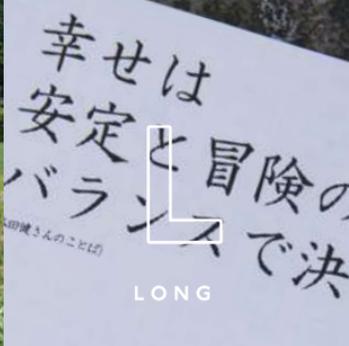
## 半農半著&星川淳さん

20代るとき、のちの人生に大きな影響を与える大事なキーワードにたくさん出会いました。時間軸系の「後世」「7世代後」「将来世代」の3つです。NHKの正月特集TVでネイティブアメリカン「イロコイ族」のことを紹介していて、そこで「7世代後」という考え方を知り、ショックを受けました。

## イロコイ族(7世代後という思想)



KOTOBA



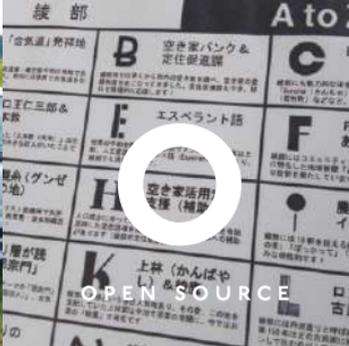
LONG



MOTOISE



NOU



OPEN SOURCE

半農半X研究所のHPは2000年4月に開設。同年5月、里山ねっと・あやべのスタッフになり、綾部からの情報発信にも力を入れてきました。そのころ、「情報発信のないところは滅びる」という言葉に出合います。2001年から里山ねっとでもHP発信。情報発信も最後は哲学勝負と感じています。

## 情報発信

無人島に何か持っていけるなら、紙とペンです。これがあれば、しあわせ。子どもの頃から文房具屋さんは大好きです。詩は書いたこともありません。1000字より100字、100字より10字、10字より1字での表現が好きです。朝3時に起きる生活をしてきて、朝(天使の時間)、インスピレーションを紙に置いたら最高です。

## ことば&書くこと(紙とペン)

長く続けてきたことの1つに「言葉貯金」があります。大学4年のとき、教育学の先生の影響で本が好きに。いい言葉もたくさん紹介してもらい、以後、ノートに書き留めてきました。いまではPCに入力し、本やフェイスブックなどで紹介中。また、言葉貯金から福知山公立大学の授業でも冒頭5つ紹介しています。

## 長く続けていること

初詣には父が、綾部のお隣の大江町(現福知山市)にある元伊勢(外宮・内宮)によく連れていってくれました。そうしたこともあってか、大学4年間は伊勢で過ごすことに。つれあいとも伊勢で出会いました。伊勢は第2の故郷です。数年前、母校の大学で講演の機会をいただきました。

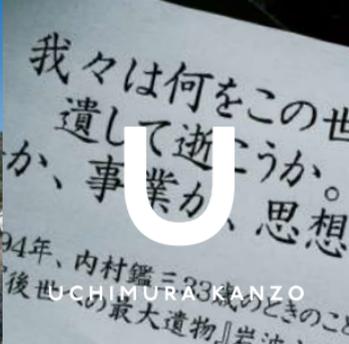
## 元伊勢&伊勢

環境問題の本を読む中で、農への関心も高まってきました。専業農家になる自信もなく、またそうなくても世界の問題が解決しないし、でも、「農ゼロ」では危険な時代。そう思っていたので、半農となりました。妥協の産物ですね。自給農は阪神大震災の翌年から。もう20年も経っています。

## 農

オープンソースという考え方に出会い、大きな影響を受けました。2002年の『青年帰農』(農文協)では、半農半Xコンセプトは独占物ではなく、「みんなのコンセプト」と宣言しています。極度の私有の時代を超えて、新しい時代をつくっていきましょうと願っています。

## オープンソース



田舎も「文化の香り」が重要。ということで、「半農半Xコンセプト」に特化した出版社として、半農半Xパブリッシングという屋号で『半農半Xという生き方実践編(新装版)』や「半農半Xデザインブック」をつくりました。10～20代の若い感性の本を編んだり、若い世代の雇用ができたというのが夢です。

半農半X。パブリッシング&本をテーマにした  
まちづくり

大学までは何も考えることもなく過ごしましたが、20代のテーマは環境問題時代を持続可能で、どう納得いく人生を送れるかでした。30歳になる少し前、半農半Xという言葉が誕生し、ぼくの自分探しは終了。以後、迷うことはなく、自分のなかではぶれていないと思っています。

### クエスト(自己探求)

高校のとき、大学を選ぶ基準は、偏差値とかではない軸で、ということ。ひかれたのは、同志社大学の神学部や高野山大学や日本初の大学である種智院大学といったマニアックなところ。日本には神道系の大学が2つあるのですが、伊勢の皇學館を選びました。文学部国史学科、専攻は奈良平安時代、律令時代の政治史です。

### 歴史(古代史)

レイチェル・カーソンが50年ほど前に言った「センス・オブ・ワンダー」(自然の神秘さや不思議さに目をみはる感性)は最も重要なチカラだと思っています。子どものココロともいえるその感性をなくさないように、エクスフォートを撮って、鍛えるようにしています。

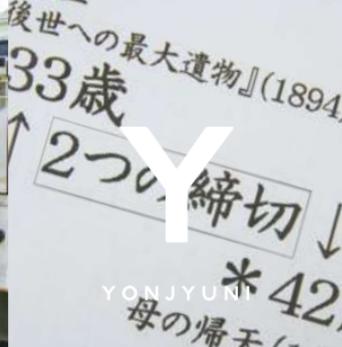
### センス・オブ・ワンダー&写真

父は小学校の教員で、途中から障がいのある子どもを担当するようになりました。そんな影響もあって、大学では教員免許を取得(中学国語・社会)、母校の中学に教育実習へ。綾部Uターン後、縁あって、2度(計4か月)、綾部の中学で教壇に立ったことがあります。

### 先生(父、教育)

28歳のとき、内村鑑三の講演録『後世への最大遺物』(岩波文庫)を読み、「我々は何をこの世に遺して逝こうか。金か事業か思想か」という文にとてもインスパイアされました。明治27年、内村は33歳の時、講演。自分も33歳で人生をリセットしようと決め、10年つとめた会社を卒業しました。

### 内村鑑三 & 後世への最大遺物(33歳||人生の縮切①)



ビジョンメイキングも20代から意識したことばです。「ことば(コンセプト)で世界をデザイン」。これがぼくのめざすところです。「半農半X、1人1研究所社会、天職観光、1集落1デザイナー、散逸社会から収斂社会へ」といった言葉をこれからは生んでいきたいと思

## ビジョンメイク

大学の同級生と1990年に結婚。2人の出会いは、伊勢神宮のある伊勢市でした。デートは伊勢神宮や赤福本店など。安乗岬の灯台もよく行きました。一番の理解者で、よく叱られています。つれあいは山口県下関市出身。家から関門海峡が見え、里山に育った者には船の汽笛はとても新鮮です。

## ワイフ(つれあい公子さん)

ぼくには特別な才能や得意なことがありませんでした。でも、こんなぼくにも何かミッションがあるはず。いまはまだ未知なるものだけど。半農半Xということばが生まれたのは、僕に何もなかったからです。不思議なものです。おかげで半農半Xは出会った人がそれぞれ「自分のXとは何か」と独自に考えることができます。

## エックス

母はぼくが小学4年のとき、病気で帰天しました。享年42歳。以来、42歳で逝っていったような人生を、と願ってきました。20代でも、30代でも「42歳まであと残り何年」とカウントダウンしてきました。半農半Xの本を上梓したのが38歳。締切に間に合ったと、ほっとしたのを覚えています。

## 42歳(母の帰天の年齢) || 人生の締切②

教育実習に行くころ、父から教わったのが「啾啄同時」という禅語です。親鳥と卵の中の雛のところが1つになったとき、卵が割れる(=弟子に悟りが生じる)。この言葉は教育の根本。ぼくの大事な座右の銘です。

## 座右の銘

ぜひ皆様も「自分AtoZ」にチャレンジください。自分を振り返るとき、未来の人生デザインにもきつと役立ちます。

家族、職場、サークル、町内会などでもおススメです。メンバーをさらによく知ることができます。得意なことを活かしたり、新しい組み合わせを創ることで、イノベーションが生まれるかもしれません。

書きこみ用の専用シートをご希望の場合は以下までメールください。

shiominaoki@fukuchiyama.ac.jp

「自分AtoZ」を  
つくりませんか？

# 塩貝直紀 NEWS



## 福知山公立大学

お隣の福知山市にあった私学が公立化され、2016年、福知山公立大学(地域経営学部)が誕生しました。地に足をつけつつ、世界に飛翔する人材「グローカリスト」の輩出をミッションとしています。縁あって、特任教員として開学時から着任しています。コンセプトメイク(言葉の力)×地域編集(ローカルメディア)×人生(生き方)を研究室の切り口にしています。



## 芸大に在籍

京都市立芸術大学大学院 美術学専攻 博士後期課程

コンセプトに関心のある方は、「もっともコンセプトについて考えてきた大学」は芸大ではないかという答えに至りました。2017年春、縁あって、芸大博士後期課程へ。「メディア・アート」領域で、「究極のメディアは人」を「AtoZ」編集手法で見える化するプロジェクトをはじめます。



## ワークブックメーカー

公益財団法人トヨタ財団の助成を得ておこなった「綾部ローカルビジネスデザイン研究所」では、4種のミニブック「ローカルビジネスのつくり方問題集」「じぶん資源とまち資源のを見つけ方」「AtoZが世界を変える!」「ローカルビジネスデザイン研究所のつくり方」を発行。スモールビジネス女性起業塾では「スモールビジネスのつくり方問題集」を制作しました。すべてワークブックスタイルとなっています。



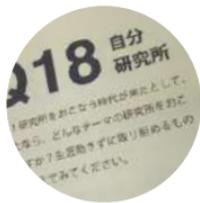
## 半農半X

阪神淡路大震災(1995)は30歳になる年に起こりました。その少し前、半農半Xコンセプトが誕生。持続可能な暮らし方をつきつけられた「環境問題」と、どう生きるかという「天職問題」が大きな背景となっています。コンセプト誕生から20年。東アジアにも広がった半農半Xはまだ進化、深化の途上です。



## 半農半Xと中国

半農半X本はおかげさまで台湾、中国、韓国でも翻訳出版されています。いまの関心事は「半農半Xコンセプトと中国の親和性」について。とある財団に研究助成を申請。採択されたら、2年間かけて、中国8か所で親和性について、半農半Xに関心をもつ現地の方と対話を始めたいと考えています。



## 1人1研究所

究極の成長戦略とは、国民の潜在能力の発揮ではないかと思えます。ある日、半農半Xの「X」の部分をさらに発展させた考え方「1人1研究所」というコンセプトが誕生しました。みんなが1人1研究所の代表であり、その集合体としての日本をイメージしています。ベーシックインカム教育版のような形で、国が研究所を応援する社会を模索したいと思えます。



## コンセプトスクール

新しいコンセプトを自分で創り続けるようになれば、生涯食べていけるし、ソーシャルデザインも可能と考えています。京都市内で5年ほど前から「コンセプトスクール」という講座をおこなってきて、いまは通信スタイルで全国を対象に開講しています。毎週金曜日に出題し、月曜回答を50週続けるものです。

## 自分AtoZシリーズ「塩見直紀AtoZ」

発行日 2018年1月10日

著者 塩見直紀

協力 佐々木博之(写真提供)

発行 福知山公立大学 塩見直紀研究室

090-6249-6539

shiominaoki@fukuchiyama.ac.jp

〒620-0886 京都府福知山市宇塚3370

<http://www.fukuchiyama.ac.jp>

### 「自分AtoZシリーズ」とは

20年前から、「半農半X(エックス=天職)」コンセプトを提唱するなかで、人それぞれの「X」の多様性を「使命多様性」と呼ぶようになりました。どうしたら人のXなるものをもっと見えるようにできるのか。辿り着いたのがAからZまでの26のキーワードで、その精神を荒削りながら表現する「AtoZ」編集手法です。個人を26のキーワードで深掘りしていくことで、メディアと人の潜在性を探索していきます。

## 自分AtoZプロジェクト @福知山

10年ほど前から、「AtoZ」という編集手法に注目。2017年にはミニブック「AtoZが世界を変える!」(綾部ローカルビジネスデザイン研究所編)を制作。福知山公立大学の2~3年生ゼミでは以下の4種を制作。2017年11月からは福知山市民の人口の1%(約800名)に「自分AtoZ」を制作してもらうプロジェクトをはじめました。「塩見直紀AtoZ」もその一環です。



2016年度前期(2年生ゼミ)

### 農家民宿 AtoZ

福知山と綾部にある農家民宿を訪ね、魅力や新しい旅の可能性を26のキーワードにまとめたもの。



2016年度後期(2年生ゼミ)

### 福知山グッドデザイン AtoZ

福知山市の魅力や「デザイン」の観点から、魅力を26のキーワードでまとめたもの。



2017年度(3年生ゼミ)

### 福知山マラソン AtoZ

27回目を迎える福知山マラソンの関係者にインタビュー。魅力、独自性などを26のキーワードでまとめたもの。

2018年1月  
完成予定

2017年度(2年生ゼミ)

### 福知山移住 AtoZ(仮題)

福知山にUターンされた方を中心に学生がインタビュー。福知山での暮らしの魅力やこれからの時代の生き方を26のキーワードで探るもの。